

| 評価項目                                                                          | 具体的な方策（P）                                                                                                           | 結果と課題（D）                                                                                                                                                                                                                                                           | 自己評価(c) |    | 改善策（A）                                                                                                                                   | 学校関係者評価 |    |                                                                                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                               |                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                    | 項目別     | 総合 |                                                                                                                                          | 評 価     |    | コメント                                                                                               |
|                                                                               |                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                    |         |    |                                                                                                                                          | 項目別     | 総合 |                                                                                                    |
| 1 学力向上<br><br>* 教務部<br>* 進路指導部<br>* 教育相談部<br>* 情報広報部                          | ①3年間を見通した南高スタイルによる教科指導の充実<br>・各学年に応じたきめ細かな指導体制の確立<br>・シラバスの活用による進度や指導内容の確認と長期的な計画に基づいた授業の実践                         | ・年度初めに各教科、学年ごとのシラバスを作成し生徒に配布した。<br>・各教科担任から学習の仕方を指導し、指導計画に沿って授業を実施した。                                                                                                                                                                                              | 3       |    | ・教科によっては、定期試験の1ヶ月前に問題を作成し、教科担任が重点内容を共有し授業をしている。これにより、学習内容のクラス間のばらつきが少なくなる。この取り組みを全体に広げたい。                                                | 3       |    | ・本校にとって最大の課題であり、評価書を見ると学校も様々な取組みをされていることが良くわかる。                                                    |
|                                                                               | ②難関校を目指す生徒への組織的な指導の充実<br>・プロジェクト委員会による数値目標の設定と達成<br>・ハイレベル講座やチームによる指導の実施                                            | ・センター試験や国公立大学合格者数の目標値を設定し、その上で1、2年学年末の対外模試の結果と比較しながら対策を検討し、教科指導を行っている。<br>・学力上位者に対しては、放課後の時間を利用してセミナーを実施したり、朝補習で習熟度別演習を実施している。<br>・南セミナー（2年）の実施と上位者向けの指導により、難関・中堅大学への意識付け、学力の向上が期待できた。                                                                             | 3       | 3  | ・年度毎に目標値との差を分析することにより、指導方法の改善や目標値の再設定を行う。<br>・生徒の立場から時間の有効活用を図る取組の推進。                                                                    | 3       | 3  | ・日常の学力向上が何にも増して学校の基本。55分授業の検証と自学習の仕方等、更なる飛躍を期待する。<br><br>・成績上位者から下位に到る生徒まで、教師の指導がきめ細やかに行われていると感じた。 |
|                                                                               | ③基礎学力定着指導の徹底<br>・プロジェクト委員会による企画<br>・自主学習の定着指導と部活動との両立支援<br>・家庭学習の目標時間を設定し、課題を活用した自宅学習の定着と主体的な学習姿勢の養成                | ・各学年、各教科の家庭学習時間の目安を生徒に提示し、年度初めに放課後の時間を利用して学習習慣定着指導を行った。<br>・定期的に学習時間調査を実施し、その結果をもとに担任、教科担任が指導を行っているが、学習時間の増加につながっていない。<br>・55分授業の3学期試行に向け、具体的な動きができており、次年度以降の入試に対応しつつ生徒の振り返りの時間確保ができ、基礎学力の向上につながっていくと期待できる。                                                        | 2       |    | ・学校での自学自習の時間を作り、家庭での学習の仕方を教科毎に指導する。さらに、家庭学習の成果を評価する仕組みを構築する。<br>・55分授業の詳細な実施方法と検証が必要である。                                                 | 3       |    | ・国公立大の合格状況において、今年度は例年に比べ非常に高い合格者数と合格率である。                                                          |
| 2 進路目標の達成<br><br>* 教務部<br>* 進路指導部<br>* 渉外部<br>* 情報広報部<br>* 図書部                | ①進路指導体制の充実<br>・国公立大学推薦入試制度の積極的な活用<br>・朝補習、放課後セミナー、土曜補習の計画的実施<br>・小論文指導(図南タイム)による進路実現に足る文章表現力の強化<br>・新しい入試システムへの早期対応 | ・生徒への説明等、時宜に合った取組ができ、予想に近い希望者が推薦を申し出た。<br>・朝補習等は計画通りに実施できているが、全体指導から個別指導への視点を入れた取組が必要である。<br>・小論文指導は、今年度から全職員での対応とし取組の効果が出ている。小論文に限らず、面接、口頭試問、集団討論、プレゼン等、組織的に実施することができた。<br>・入試システムに関する様々な情報を収集しつつ、並行して本校での対策も確立しつつある。                                             | 3       |    | ・宮崎大学への推薦・AOの更なる積極的な活用。<br>・土曜補習については、他校の現状を踏まえ改善を図る。<br>・多様な入試に向け、全職員で共通理解を深める場を提供していく。<br>・入試に関する情報の整理と、共通理解をするための取組を行う。               | 3       |    | ・新しい入試システムの導入など、学校現場の対応にめまぐるしいものがあるが、情報を収集・整理して、より高い進路目標の達成を期待する。                                  |
|                                                                               | ②大学の教育力の活用<br>・高大連携による探究型活動の推進と拡大<br>・出前講座、宮大教育セミナーの活用<br>・教師を志望する生徒に対する宮大教育学部との連携の効果的な活用                           | ・南九州大学、宮崎大学教育学部に加え、宮崎産業経営大学、宮崎国際大学とも連携協定を締結した。<br>・フロンティア科を中心に、探求活動の充実が図れている。今後は普通科に手法を転化してしていく取組が必要となる。<br>・進路ガイダンス、宮崎大学教育学部の連携事業（1年）も実施し、3カ年での流れが確立できつつある。<br>・教師みらいセミナーは、毎回充実した内容で実施されており、生徒の意識の高まりがみられる。但し、準備・調整に時間を要するのが課題である。                                | 3       | 3  | ・連携協定を結んだ大学との連携をどのように行っていくかの検討が必要である。<br>・次年度より、普通科に探求活動を実施していく。<br>・宮崎大学との連携事業については、2年生での取組を継続的に検討していく。<br>・教師みらいセミナーの分担<br>・整理を検討していく。 | 4       | 3  | ・県内大学との連携協定締結を評価する。これからは、その施行がポイントになる。                                                             |
|                                                                               | ③特化した進路指導体制の確立<br>・指導者を目指す生徒の育成<br>・鵬ドリカム講座やPTAと連携したキャリア教育の実践                                                       | ・指導者を目指す生徒の育成については、具体的な事はできていない。<br>・キャリア教育推進委員会を中心に円滑に実施できており、生徒の進路選択の助けになっている。                                                                                                                                                                                   | 2       |    | ・教育、看護系を希望する生徒が多く、他の職種について知る機会を増やしていく。<br>・同窓会、PTAとの連絡をさらに密にし更なる充実を図る。                                                                   | 3       |    | ・鵬ドリカム講座やPTAとの連携を評価する。                                                                             |
| 3 豊かな人間性の醸成<br><br>* 生徒指導部<br>* 図書部<br>* 環境美化部<br>* 保健安全部<br>* 教育相談部<br>* 渉外部 | ①部活動の更なる活性化<br>・南高生としての帰属意識の育成<br>・ハイレベルな文武両道達成のための職員の共通理解の推進<br>・部活動生集会、キャプテン会の活性化                                 | ・部活動の好成績より、活気ある学校となり帰属意識も高まったのではないかと。<br>・ハイレベルな文武両道を形にすることが難しい。<br>・部活動派遣規定改定3年目で、部活動生の定期テストへの取り組みが良くなっている。<br>・部活動単位による、清掃活動やボランティアへの参加、学習会をおこなっている。<br>・キャプテン会や部活動生集会を通して、主体的に活動できる部活動生の育成に努めた。<br>・職員と部活動生との交流会を実施し、生徒理解を深めることができた。同時に、部活動生は部顧問以外の先生方との交流ができた。 | 3       |    | ・ハイレベルな文武両道について、理解・認識を、生徒・職員ともに深めていく。<br>・交流会については、改善しながら今後も続けていく。<br>・派遣規定を現状にあうよう改定する必要がある。                                            | 3       |    | ・部活動や生徒会活動、鵬祭の実施などに、燃える生徒達の姿は南高校の伝統である。部活動の成績も全体的に向上しており、とても良い雰囲気である。                              |
|                                                                               | ②キャリア教育・人権教育等による人間教育の推進と人間力の醸成<br>・インターンシップ・ボランティア活動等の推進<br>・人権教育とピアサポートの充実<br>・学校生活アンケートの活用による                     | ・インターンシップは2日間で実施し、生徒の参加姿勢も評価されており有意義であった。<br>・人権教育推進委員会の企画のもとで、「人権教育だより(学期2回)」「人権啓発月間(毎学期)」「LHRによる啓発や講演(毎学期)」を実施し、差別を許さないところを育て、人権感覚の向上や感性豊かな                                                                                                                      |         | 3  | ・インターンシップの日程(期間も含む)の調整と、事前・事後の指導の充実<br>・アンケートで可視化されない部分は、平常の生活において観察活動の更なる充実を図                                                           |         |    | ・豊かな人間性の醸成に係る様々な取組が行われ、期待される成果を上げていることがわかった。                                                       |

|                                               |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                               | <div>る生徒理解と早期対応</div> <div>・主権者教育の充実</div> <div>・「朝の読書」活動の推進</div> <div>・学校司書エリコーディネーターを中心とした図書室の充実</div> <div>・主体的な清掃活動による環境美化意識の高揚</div> | <div>な生徒の育成に寄与した。</div> <div>・ピアサポート活動は計画通りに実施できたが、その効果の検証は難しい。</div> <div>・学校生活アンケートを活用した個々への対応には面談を通し早期に実施できた。しかし、アンケートに可視化されない部分にどう対応するかが重要である。</div> <div>・主権者教育について、生徒会選挙において宮崎市選挙管理委員会より記載台等を借りて、本物に近い投票体験ができた。</div> <div>・急に衆議院選挙がおこなわれたが、有権者の生徒に混乱はなかった。</div> <div>・「朝の読書」については、担任と副担任の先生方との分担により概ねうまくできた。</div> <div>・学校司書エリコーディネーターは、現在、授業に必要な本の購入、書架等の整備等の業務をを中心におこなっている。図書室整備の影響からか、１２月現在約１０００冊増と貸出数がかなり増えた。</div> <div>・清掃強化週間、美化リンピックの取り組みが定着し、この期間の清掃状態は良くなった。期間以外にも積極的に取り組む生徒の割合を高めることが今後の課題である。</div> <div>・ゴミの減量化を目的に、ゴミ出しの曜日指定を実施し、一定の成果があった。</div> | 3 |   | <div>る。</div> <div>・生徒会選挙については、記載台、投票箱等を引き続き借りて実施していく。</div> <div>・生徒会選挙において、投票体験だけでなく、マニフェストへの関心を持たせていきたい。</div> <div>・各種委員会（図書委員会）等で図書委員の自主的な活動を呼びかける。</div> <div>・図書の利用を各教科に呼びかけ、授業での使用回数の増加を目指す。</div> <div>・学習環境を良くすることが学力向上につながるという意識を持たせることが「主体的な清掃活動」つながるということを様々な場面で訴えていきたい。</div> <div>・ゴミの分別の徹底と、学校環境を守る意識の醸成教育が必要。</div> | 3 | 3 | <div>・引き続き読書量を増やす施策に務めていただきたい。</div> <div>・生徒達の文化祭運営、サイエンス系の研究発表など、ポジティブなエネルギーを感じた。</div>                                                                                                                                                                                                                          |
|                                               | <div>③生徒の主体性を重視した取り組みの推進</div> <div>・生徒会活動やリーダー研修会の更なる活性化</div> <div>・鵬祭等の学校行事の企画・運営を通した主体性の育成</div> <div>・自他の健康に興味関心を持たせる健康教育の推進</div>    | <div>・生徒会活動については、宮崎市内普通科高校への文化祭視察や、リーダー研修をおこなった。また、鹿児島県へ他県生徒会視察もおこなった。</div> <div>・鵬祭においては、文化祭実行委員の早めの準備で、計画的に実行できた。</div> <div>・情操教育として。生き物飼育（熱帯魚）、鯉のぼり、七夕飾り、クリスマスツリー設置などを行った。</div> <div>・健康診断はスムーズに実施でき、治療報告等をおこなった。課外等で受診できない生徒等もあり、治療を促していきたい。</div> <div>・１，２年生に対して性教育講演を実施した。今後はLGBTの講話で人権教育にも触れる。</div> <div>・体育的な行事に際し、健康相談を実施し、健康に関心を持たせた。</div> <div>・毎月健康通信を配布し、健康の興味を持たせるよう促した。</div>                                                                                                                                                                       | 3 |   | <div>・各種委員会が、より能動的な活動ができる会にしたい。</div> <div>・３年生の受験に向け、鵬祭の実施時期を含めたバランスを検討していく。</div> <div>・性教育、LGBT 講演の更なる検討をおこなう。</div> <div>・健康への関心と、安全への配慮として、行事前の健康相談を充実する。</div> <div>・健康通信の配布で、健康への関心を引き続き高める。</div>                                                                                                                            | 3 |   | <div>・学校パンフレット、ＰＴＡ新聞等、とても見やすく素晴らしい内容になっている。</div> <div>・ＰＴＡ、同窓会との関係も良好。南高校職員が営業マンになって外部</div>                                                                                                                                                                                                                      |
| 4 保護者・地域との連携推進                                | <div>①広報活動の活性化</div> <div>・「学校案内」の大幅改訂、や「ＰＴＡ新聞」の有効な活用</div>                                                                                | <div>・広報関係を、各分掌から情報広報部に移行し、学校案内パンフレット、地域回覧板、広報用ポスター、中学校別ポスター等の作成により、学校の情報を地域に発信できた。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 3 |   | <div>・広報情報活動について、デジタルネットワークと、従来の方法との相互補完の在り方の工夫・開発を進める。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                        | 4 |   | <div>に積極的に「良さ」をアピールして欲しい。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| * 渉外部<br>* 事務部<br>* 情報広報部<br>* 教務部<br>* 進路指導部 | <div>②ＰＴＡ活動の充実</div> <div>・役員会、理事会、学年会、各委員会活動の活性化</div> <div>・ＰＴＡ主催事業の組織的・計画的推進</div>                                                      | <div>・ＰＴＡ新聞は、生徒や保護者に還元できる情報や、学校の様子がわかる内容で、印刷は予備を多く取り、様々な場面で学校の紹介に役立てている</div> <div>・ＰＴＡの諸会議については学校、ＰＴＡの相互理解のもと円滑に会議を進めることができています。</div> <div>・学年会、各委員会については学校とＰＴＡの連絡を密にとりながら、積極的に活動をおこなっている。「広報委員会」では今年度も広報紙コンクールで県代表になるなど継続的に充実した活動を展開できている。「研修委員会」は昨年度までの「ＰＴＡから君たちへ贈る講演会」に代わるものとしてＰＴＡ向けの新規研修（今年度は「骨盤セラピー」）を立ち上げていただいた。「環境安全委員会」では各学期のはじめに１０日間程度の「朝の交通安全指導」を計画・実施した他、奉仕作業等でも活発な活動がみられた。今後の活動は１２月の「鵬合格うどん」や３月の「卒業祝賀会」を計画中である。</div>                                                                                                                                      | 3 | 3 | <div>・学校の広報担当者とＰＴＡ広報委員による会議を企画し「相互にやりたいこと・やって欲しいこと」の意見を交換する場を設定することで、学校、ＰＴＡが一体となった広報活動が展開できないか模索する。</div> <div>・ＰＴＡ活動の活性化については、年間を通した計画を組織的に継続することに重点を置きつつ、その年の役員の意思を反映しながら適正な運営や改善に努めたい。</div> <div>・ＰＴＡ活動全般において、出席率の向上を図るため、活動広報を早めに取り組んでいきたい。</div> <div>・ＰＴＡ活動の年間計画については、次年度も本年同様の内容を実施予定である。</div>                              | 4 | 4 | <div>・我々関係者も、機会あるごとに南高校をプッシュしていく。</div> <div>・広報活動は、活発化の方向にあるように見える。</div> <div>・ドリカム講座、同窓会との連携をポジティブに評価する。</div> <div>・周辺自治会回覧板での学校活動の報告や先生達による塾の訪問（広報活動）、本校生徒による小学生への学習サポートの取り組みや地域活動への参加、お手伝い（祭りや一斉清掃）、本校吹奏楽部と近隣中学校吹奏楽部との合同演奏会の開催といった地道な活動を継続して続けていただきたい。本校への高評価につながり、ひいては地元の優秀な生徒が入学してくれることにつながるのではないかな。</div> |
|                                               | <div>③同窓会との連携協力推進</div> <div>・同窓会理事会との連携による情報の共有化</div> <div>・ドリカム講座の充実</div>                                                              | <div>・同窓会理事会が毎月開催され、担当職員も参加することで密な連携を図ることができた。同窓会奨学制度「福田育英会」の協力をはじめ、昨年度より実施の「レベルアップ学習会」を今年度は２回実施し、学力へのサポートも強力におこなっていただいた。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 3 |   | <div>・同窓会事業内容と学校の関係分掌の連絡、調整にさらに努める。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 4 |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                                               | <div>④中高連携の推進</div> <div>・中学校主催の高校説明会への積極的な参加</div> <div>・授業公開期間とオープンスクールの効果的な実施</div>                                                     | <div>・高校説明会へは管理職を中心に積極的に中学校へ出向いた。</div> <div>・11月後半から、数校ではあるが本校１年生を出身中へ派遣し中学生と意見交換をおこない好評であった。</div> <div>・オープンスクールは多数の来校者があるが、授業公開には見学者が少ない。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 2 |   | <div>・本校の特長を説明する機会の設定を考慮する。</div> <div>・本校の特長を明確にアピールできる映像等が必要。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                | 3 |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |